島から見た宗像

望の殆どなのである。 梶目の大島と、隣の地島が展 公園から、北斗七星が玄界灘

かつて宗像郡であった津屋崎渡 お隣り福津市である。境目の 見ると在自山など宮地嶽に続 勝浦から左の鐘崎まで、せいぜ どの低い山が見える。右方向を 県ん中奥に新立山、

許斐山な 北九州圏との境を作っている。 ンンボル四塚が、屛風のように 山、手前には渡半島、すでに もっと島からの展望を見てみ に、宗像市本土側は収まる。 。左は北九州市から山口 度ほどの間である。この 照らす光景が、 の海に映える朝日は見事だ。最 岸では夕日は海に沈むが、朝日 近では中津宮の参道を朝日が は背後の陸地から昇る。島から

ゆったりと島時間を こんな素敵な大島に泊 て話題となっている。 きらきらと輝く海が妖



むなかたNPOマガジン ふらぐ

vol.25

1947年10月24日生まれ。

海路を駆けたのである。先祖た 段として海を渡る船を大昔よ 先人の心意気を感じる。その手 るのである。普段から広大な視 遥か大陸を目指す航路が見え ちの命懸けの航跡に尊敬の想 り操り、自在に高速道であった を抱き、その子孫である事 りを忘れたくない。 し、その環境がもた

陸岸を見ると、左側には宗像の

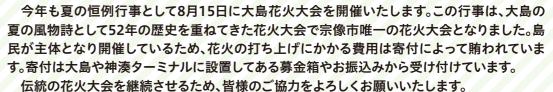
この特徴である。九州北部沿 出を見ることが出来るのが

さて、視点を大島に移そう。

8月15日(木)開催 大島花火大会

日出ずる道と

-小さな島の大きな『夢』花火大会-





大島地区コミュニティ運営協議会/TEL:0940-72-2321

記号:17410 番号:94428931

むこ

店名:七四八 店番:748

大島花火大会 Facebookページは こちら



名義:オオシマハナビタイカイジッコウイインカイ



玄海さつき温泉の 入浴チケット」が当たる!

ケットをプレゼント!次号のふらぐと一緒 http://u0u1.net/YGo1



玄海さつき温泉

ながらゆったりとおくつろぎいた



¥() TAKE FREE □/□/■ PENTAGON 宗像



https://pentagon67.com

自由の森遊歩道を守る会

左ページ「目からのウロコ」にも登場 する「自由の森遊歩道を守る会」も市 の補助金を活用した団体の一つ。 「地域に住む人が憩える遊歩道をつ くる」ことを目的として、遊歩道づくり に必要な作業道具や階段作り等の 材料調達などに補助金を活用しまし た。開通して10年になる現在も、毎月 15日に守る会の会員(ボランティア) によって定例で管理・整備が行われ ています。興味のある方は活動を見 学してみませんか。



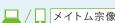
TEL / 0940-33-8624 E-mail/mmna211@kii.bbiq.jp (担当:中山)



Q

市民活動を応援する 補助金・助成金

宗像市の補助金の他にも全国に は多くの市民活動を応援する補 助金や助成金があり、その助成元 も企業や財団などさまざまです。ま た「事業に対する補助」なのか、 「組織運営に対する補助」なの か、補助対象も異なります。団体 に必要な補助金を選択し、検討す る際にはしっかりと計画を立てるこ とが大切です。メイトム宗像でも随 時補助金・助成金情報を掲示し ているので気になる人はチェックし てみてください。



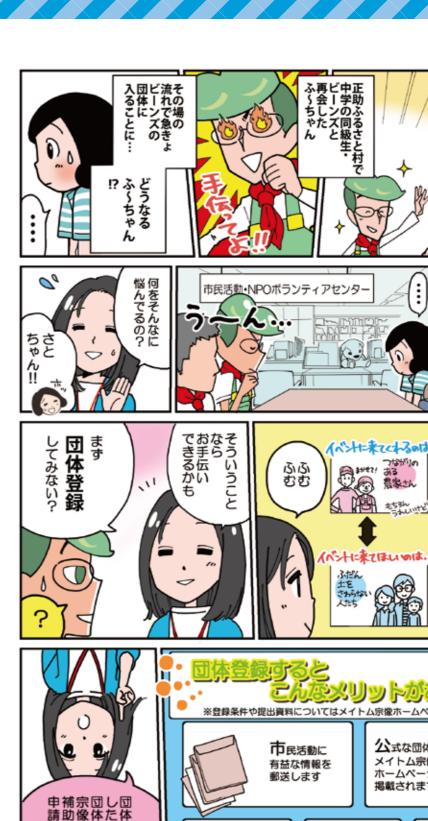




ないけどは

うことは









あらすじ

Ď

6







き動かすものは何なのでしょうか? しぎょう:東吾さんは根っからの宗像っ子なんで

ら遠くに見える電車やゆめタウンを眺めながら たんですが、小さい頃からこのまちがずっと大 育ちました。中学を卒業してから東京に出てい ました。唐津街道の赤間宿は通学路で、釣川か 東吾さん:赤間が実家で城山中学校に通ってい

ていたんですか? しぎょう:中学校を卒業してから東京へ?何をし

がその頃からあったのかもしれません。 けど、無意識に「自分を表現したい」という願望 振るミニーちゃんの姿を強烈に覚えているんです ディズニーランドで見た、パレードでみんなに手を 業すると同時に東京に行きました。小さい頃に ビの中の役者に憧れて事務所を探し、中学を卒 がら女優をしていました。5歳からダンスを始め 東吾さん:芸能事務所に所属して学校に通いな て小中学校の頃はミュージカルに没頭、そしてテレ

らそう話すのは赤間宿に拠点をつくろうとし ている東吾優希さん。今年2歳になる彼女を突 くりたいんです」。人なつっこい笑顔を見せなが 放課後の風景のシンボルのような場所をつ らしく生きているお手本のような同世代の人た していたんだなあと気づきました。 いきたいのかという本当に大切なことをすっ飛ば 分の幸せとは何なのか、もっと言えばどう死んで 結果的に自分がどういう人間になりたいか、自 のかを見つけるアンテナが育ったように思います。 ちとの出会いがあって、自分が好きなものは何な が死んでいきましたね。もがいている最中、自分 の女優の仕事が全然楽しくなくなってしまい、心 執していたので、自分でやりたいと思っていたはず 居やご飯を食べていくための仕事の取り方に固 と」しか考えていませんでした。売れるための芝

しぎょう:すごい気づきですね。

いうことがわかり、芸能事務所を辞めたんです。 は「私にしかできない表現をしたかったんだ」と 居だけが表現じゃない」ということに気づき、私 残した一つの表現だ」と思いました。そして「お芝 在が特別なヒントになって、「これはじいちゃんが がしなかったんです。後になってそんな祖父の存 東吾さん:あとは、東京にいる間に祖父が亡く しぎょう:それで帰ってきて、まちのために何かし なっていたんですけど、不思議といなくなった気

> に飛び出してしまうかもしれないこれからの子 をつくっていきたいと思っています。 私のように、自分が何者かわからないまま社会 ような場所に出会えていたら、宗像にもっといろ どもたちに自分の人生について考えるきっかけ 自分を見失わなかったかもしれない。だから昔の んな物に触れる選択肢があったら、外に出ても た。中学生だった当時、宗像で自分の心が動く あって、私がやることに意味があると思いまし

設したワクワクする場所をつくっていきます! ベントの開催と、古着販売やフィルム写真屋を併 ルチャースペースをつくります。今までなかったイ 東吾さん:赤間宿の古民家に「たらいま」というカ しぎょう:具体的にどんなことを考えてますか?



つくろうと思ったことです アイデンティティである宗像で、 自分を表現する場所を



信していくこと」こそが私にしかできない表現で るわけではないです。「宗像からメッセージを発

東吾さん:正直、まちおこしをしようと思ってい

東吾さん:上京した当時は「女優として売れるこ

しぎょう:すごい行動力ですね-





Vol. 05

ふらぐ編集部のしぎょうが取材してきました。

宗像のまちで秘かに活動する魅力的な人。 その「ひと」が「まち」と出会い、交わるきつかけ

ゅうき **優希** 店主



宗像で幼少期・学生時代 を過ごす若者が自分のも のさしを育てる場所をつ くるため、役者業を辞めて 帰郷。6月赤間宿にオープ ス「たらいま」の店主で、イ ベントや全体のディレク ションなどを担う。



自分たちのまちは 自分たちの手で

行って きました!



ふらぐ編集部アンドゥさん

自由の森遊歩道は、地元ボランティアを中心に市民が力を合わせることで完成した手作りの遊歩道。ゼロからスタートした遊歩道づくりの歴史と、遊歩道を守るために活動を続ける団体のまちづくりに対する想いにせまる。

地域住民の健康づくりと憩いの場

2 010年4月に開通した「自由の森遊歩道」が今年4月に10 周年を迎えた。四季折々の自然を味わいながら気軽に 山を散策できると、地域住民を中心に親しまれている。遊歩道の 開通当初から利用者の安全を第一に考え、遊歩道の維持管 理活動を続けている市民活動団体がいる。「自由の森遊歩道を守る会(以下、守る会)」だ。遊歩道の年間利用者はのべ3000人以上。守る会の精力的な活動のおかげで、開通から10 年間、利用者の事故は1件も発生していないという。

自由ヶ丘の小さな森に遊歩道をつくろう

自由ヶ丘地区は、戸建住宅が密集している地域。幅の狭い 道路も多く、健康のために散歩をしている住民の真横を車が通 り過ぎていく光景を見かけることも多かった。そんな様子をみて 「地域のみなさんが自然とふれあいながら気持ちよく歩ける遊歩 道をつくろう」と当時の宮本さんたちをはじめ、自由ヶ丘地区コ ミュニティ運営協議会(以下、コミュニティ)が動き出したという。 まずは、出入口さえわからない状態の山に関係者数名で入り、 現地調査を実施。一歩一歩足跡を残していき、遊歩道の基本 ルートをつくり上げた。そして、地権者の方々との話し合いを重ね た。何度も足を運び、写真や動画を使って山の現状を伝え、遊 歩道への熱い想いをぶつけて了承を得たという。 3.41

ノコギリ一本ないところから始まった

本格的な作業を開始する段階に入ったものの問題は山積みだった。「私たちには遊歩道をつくるためのお金も、道具も、技術も、労働力も…何もなかったんです」と宮本さんは当時を振り返る。

そんな中、「遊歩道をつくろう」という呼びかけに、50人もの地 元ボランティアが集まってくれた。ある人は道具を持ち寄り、また

プロフィール 自由の森遊歩道を守る会

会 長 **宮本 鎭郎**さん(左) 事務局長 **中山 端夫**さん(右)

遊歩道づくりのために集まった地元ボランティアを中心に結成。遊歩道の全長は、自由ヶ丘小学校側出入口から南側出入口まで1.5km(2010年時点で1.1km、その4年後に400m延長)。団体の活動については、右ページのふ~ちゃんcheck!を参照。



ある人は必要な機材を調達してきてくれたという。「みなさん地域のために何かしたいんですよね。ボランティア支援だけでなくたくさんの気持ちをいただきました」と宮本さん。さらに、チェーンソーの使い方など遊歩道づくりの基礎となる技術は、「NPO法人宗像里山の会」の支援を受け習得。他にも、森林組合から間伐材を譲ってもらった。その木材を使って一段ずつ手作業で遊歩道の階段をつくり上げていったという。こうしてコミュニティ、地元ボランティア、市民活動団体による協働が実を結び、構想から約2年半かけて完成を迎えたのである。

自分たちの手で住みやすいまちに

「毎日の散歩や小学校の遠足など地域のイベントに遊歩道を使ってもらえると、また頑張ろうという気持ちになります」。遊歩道を利用してもらえることが活動の原動力になっていると宮本さんと中山さんは口をそろえて言う。守る会は、遊歩道の維持管理だけにとどまらず、少しずつ活動の場を広げている。地域の小学生を対象にした自然体験学習を開催したり、周辺地域の美化活動を積極的に行ったり。活動の場を広げることで、多くの地域住民が集まり交流する機会を増やしたいと考えている。

「私たちが活動している姿を見かけた方が、守る会の活動を知り、『自分も地域のために何かしたい』と動き出してくれたら、こんなうれしいことはありません」。「自分たちの手で自由ヶ丘を住みやすいまちにしよう」という想いが次につながっていくことを宮本さんたちは願っている。

